

平成29年度前期 目黒区立学校における不登校の状況について
(平成29年9月30日現在)

1 不登校児童生徒の定義

当該年度の4月1日から3月31日までに、30日以上欠席した児童生徒で、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者（ただし、心身の疾病やけが等を除く）をいう。

2 対象期間

平成29年4月1日から9月30日まで

3 4月から9月までの不登校児童生徒及び学年別内訳（単位：人）

() 内は前年度から継続して不登校であった児童生徒数

	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小学校	平成29年度	0 (0)	2 (0)	5 (3)	1 (0)	4 (3)	7 (4)	19 (10)
	平成28年度	0 (0)	3 (1)	0 (0)	7 (5)	4 (3)	3 (3)	17 (12)
	平成27年度	0 (0)	1 (1)	4 (1)	3 (1)	2 (1)	3 (2)	13 (6)
中学校	平成29年度	6 (1)	15 (9)	20 (16)				41 (26)
	平成28年度	6 (1)	18 (14)	19 (15)				43 (30)
	平成27年度	14 (8)	13 (7)	21 (18)				48 (33)

4 不登校児童生徒の出現率（単位：％）

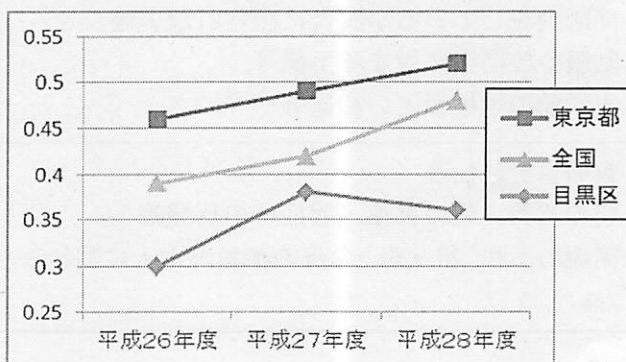
(1) 年間出現率（単位：％） 各年度（4月～3月）の数値

	年度	目黒区	東京都	全国
小学校	平成28年度	0.36	0.52	0.48
	平成27年度	0.38	0.49	0.42
	平成26年度	0.30	0.46	0.39
中学校	平成28年度	2.31	3.60	3.01
	平成27年度	2.79	3.33	2.83
	平成26年度	2.08	3.17	2.76

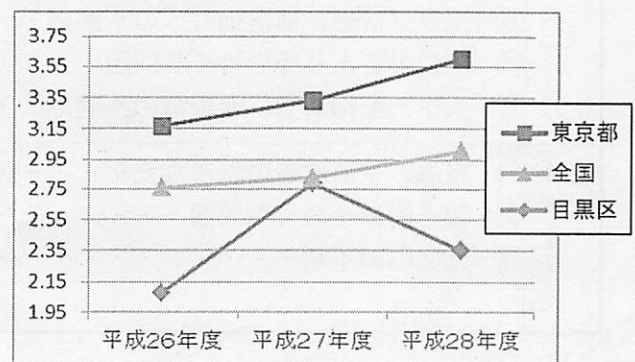
出現率：

各年度当初の在籍
児童生徒数に対する
不登校児童生徒数の
割合

ア 小学校の不登校の出現率（単位：％）



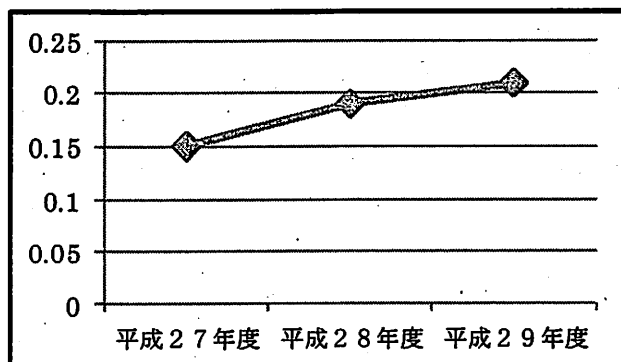
イ 中学校の不登校の出現率（単位：％）



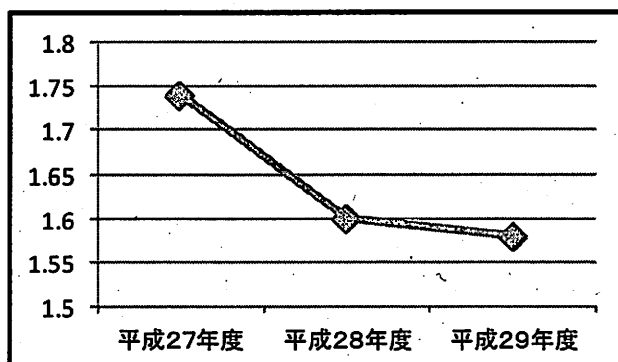
(2) 前期4月～9月の出席率(単位: %)

	年度	目黒区
小学校	平成29年度	0.21
	平成28年度	0.19
	平成27年度	0.15
中学校	平成29年度	1.58
	平成28年度	1.60
	平成27年度	1.75

ア 小学校の不登校の出席率(単位: %)



イ 中学校の不登校の出席率(単位: %)



5 不登校の要因・状況の具体例

不登校の 主たる 要因	① 学校における人間関係・友人関係又は教職員との関係に課題を抱え登校しない等。 ② あそび・非行・・・遊ぶためや、非行グループに入っていることなどのため登校しない等。 ③ 無気力・・・無気力でなんとなく登校しない、登校しないことへの罪悪感が少なく、迎えに行ったり強く催促すると登校するが長続きしない等。 ④ 不安・・・登校の意志はあるが、漠然とした不安を覚え登校しない等。 ⑤ その他・・・本人や保護者と話をしても上記のような傾向が見えず、理由がはっきりしない。
学校に係る 状況	⑥ いじめ・・・児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為(インターネットを通じて行われるものを含む。)であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。 ⑦ いじめを除く友人関係をめぐる問題・・・仲違い等 ⑧ 教職員との関係をめぐる問題・・・教職員の強い叱責、注意等 ⑨ 学業の不振・・・成績の不振、授業がわからない、試験が嫌い等 ⑩ 進路にかかる不安・・・将来の進路希望が定まらない等 ⑪ クラブ活動、部活動等への不適応・・・部活動をしているが試合に出られない等 ⑫ 学校のきまり等をめぐる問題・・・制服や校則等に対する不満等 ⑬ 入学、転編入学、進級時の不適応・・・入学前の学校像との相違等
家庭に係る 状況	⑭ 家庭の生活環境の急激な変化・・・親の単身赴任等 ⑮ 親子関係をめぐる問題・・・親の叱責、親の言葉・態度への反発等 ⑯ 家庭内の不和・・・両親の不和、祖父母と父母の不和等本人に関わらないもの

6 小学校における不登校の要因

(1) 不登校の主たる要因（単回答 単位：人）

() 内は前年度4月～3月の人数

不登校の主たる 要因 (単回答)	①「学校にお ける人間関 係」に課題を 抱えている		②「あそび・ 非行」の傾向 がある		③「無気力」 の傾向がある		④「不安」の 傾向がある		⑤その他		計
	3 (14)		0 (0)		2 (2)		8 (13)		6 (3)		19 (32)
男女別	男1 (6)	女2 (8)	男0 (0)	女0 (0)	男2 (2)	女0 (0)	男3 (8)	女5 (5)	男5 (2)	女1 (1)	男11 (13) 女8 (14)

(2) 不登校の要因（複数回答 単位：件）

() 内は前年度4月～3月の件数

不登校の要因 (複数回答)		①「学校にお ける人間関 係」に課題を 抱えている	②「あそび・ 非行」の傾向 がある	③「無気力」 の傾向がある	④「不安」の 傾向がある	⑤その他	計
学校に係る状況	⑥ いじめ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	⑦ いじめを除く 友人関係をめ ぐる問題	3 (10)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)	6 (11)
	⑧ 教職員との 関係をめぐる 問題	2 (3)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	3 (3)
	⑨ 学業の不振	1 (2)	0 (0)	1 (0)	4 (2)	1 (0)	7 (4)
	⑩ 進路にかか る不安	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	⑪ クラブ活動、 部活動等へ の不応	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	⑫ 学校のきま り等をめぐる 問題	1 (4)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	1 (2)	4 (7)
⑬ 入学、転編 入学、進級時 の不応	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
家庭に係る状況	⑭ 家庭の生活 環境の急激 な変化						
	⑮ 親子関係を めぐる問題	2 (1)	0 (0)	1 (1)	5 (6)	2 (1)	10 (9)
	⑯ 家庭内の不 和						
学校・家庭に係る 状況のいずれにも該 当しない		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (5)	3 (0)	3 (5)
計		10 (20)	0 (0)	3 (2)	13 (14)	8 (3)	34 (39)

7 中学校における不登校の要因

(1) 不登校の主たる要因 (単回答 単位:人)

() 内は前年度4月～3月の人数

不登校の主たる 要因 (単回答)	①「学校にお ける人間関 係」に課題を 抱えている		②「あそび・ 非行」の傾向 がある		③「無気力」 の傾向がある		④「不安」の 傾向がある		⑤その他		計	
	9 (13)		2 (1)		14 (18)		13 (19)		3 (11)		41 (62)	
男女別	男3 (7)	女6 (6)	男2 (1)	女0 (0)	男10 (14)	女4 (4)	男8 (12)	女5 (7)	男2 (6)	女1 (5)	男25 (40)	女16 (22)

(2) 不登校の要因 (複数回答 単位:件)

() 内は前年度4月～3月の件数

不登校の要因 (複数回答)	①「学校にお ける人間関 係」に課題を 抱えている	②「あそび・ 非行」の傾向 がある	③「無気力」 の傾向がある	④「不安」の 傾向がある	⑤その他	計
学校に係る状況	⑥ いじめ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	⑦ いじめを除く 友人関係をめ ぐる問題	9 (8)	1 (0)	0 (3)	4 (2)	15 (13)
	⑧ 教職員との 関係をめぐる 問題	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	2 (1)
	⑨ 学業の不振	3 (4)	1 (0)	4 (2)	4 (5)	13 (13)
	⑩ 進路にかか る不安	0 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (2)
	⑪ クラブ活動、 部活動等へ の不応	0 (0)	0 (0)	0 (1)	1 (0)	1 (1)
	⑫ 学校のきま り等をめぐる 問題	0 (1)	0 (0)	1 (0)	1 (3)	2 (5)
	⑬ 入学、転編 入学、進級時 の不応	3 (1)	0 (0)	4 (2)	1 (0)	9 (4)
家庭に係る状況	⑭ 家庭の生活 環境の急激 な変化					
	⑮ 親子関係を めぐる問題	3 (0)	1 (0)	6 (9)	6 (6)	18 (19)
	⑯ 家庭内の不 和					
学校・家庭に係る 状況のいずれにも該 当しない		0 (0)	0 (1)	4 (3)	3 (4)	7 (11)
計		20 (14)	4 (1)	19 (20)	21 (21)	69 (69)

8 不登校児童生徒への対応状況（複数回答 単位：件）

（ ）内は前年度4月～3月の不登校児童生徒への対応状況

区 分		小 学 校	中 学 校	合 計
学 校 外	① 学習支援教室(めぐろエミール)	0 (4)	10 (21)	10 (25)
	② めぐろ学校サポートセンター教育相談	4 (12)	7 (8)	11 (20)
	③ スクールソーシャルワーカー	6 (2)	7 (8)	13 (10)
	④ 児童相談所、福祉事務所等	4 (1)	7 (8)	11 (9)
	⑤ 保健所、精神保健福祉センター	0 (0)	1 (1)	1 (1)
	⑥ 病院、診療所	6 (9)	8 (9)	14 (18)
	⑦ 民間団体、民間施設、フリースクール、塾 等	1 (5)	0 (3)	1 (8)
	⑧ 上記以外の施設	2 (7)	1 (7)	3 (14)
	計	23 (40)	41 (65)	64 (105)
学 校 内	① 担任	19 (32)	41 (62)	60 (94)
	② 養護教諭	10 (15)	20 (35)	30 (50)
	③ その他の教員	12 (20)	29 (38)	41 (58)
	④ スクールカウンセラー	12 (24)	29 (46)	41 (70)
	計	53 (91)	119 (181)	172 (272)
合 計		76 (131)	160 (246)	236 (377)

9 不登校の解消状況（単位：件）

	年度	登校できるよう になった	好ましい変化が 見られる	変化なし	合 計
小 学 校	平成29年度 4月～9月	9	2	8	19
	平成28年度 4月～3月	15	8	9	32
	平成27年度 4月～3月	12	10	10	32
中 学 校	平成29年度 4月～9月	3	13	25	41
	平成28年度 4月～3月	24	23	15	62
	平成27年度 4月～3月	16	26	35	77

46.9%

39.5%

38.7%

20.8%

	小	中
東	28.9	29.8
全	29.3	23.0

10 登校できるようになった児童生徒に効果のあった学校の措置（複数回答 単位：件）

（ ）内は前年度4～3月の件数

内 容	小学校	中学校	合計
研修会・事例研究会で全教師の共有理解を図った	1 (6)	2 (2)	3 (8)
全ての教師が当該児童生徒との触れ合いを多くするなどして学校全体で指導に当たった	1 (5)	4 (3)	5 (8)
養護教諭が専門的に指導にあたった	2 (2)	0 (3)	2 (5)
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育相談員が専門的に指導にあたった	3 (6)	8 (14)	11 (20)
友人関係を改善するための指導を行った	3 (4)	3 (3)	6 (7)
教師との触れ合いを多くし、教師との関係を改善した	3 (4)	1 (3)	4 (7)
授業方法の改善、個別指導などわかる授業の工夫をした	0 (1)	0 (1)	0 (2)
本人が意欲をもって活動できる場を用意した	6 (9)	3 (7)	9 (16)
保健室等特別の場所に登校させて指導にあたった	1 (8)	3 (5)	4 (13)
登校を促がすため、電話をかけたたり迎えに行った	5 (10)	4 (13)	9 (23)
家庭訪問を行い、相談に乗るなど様々な指導・援助をした	4 (6)	9 (4)	13 (10)
保護者の協力を求め、家庭生活等の改善を図った	4 (6)	9 (4)	13 (10)
サポートセンター(エミール)との連携を図った	2 (1)	3 (2)	5 (3)
病院等の医療機関と連携して指導にあたった	1 (2)	0 (2)	1 (4)
その他（他機関との連携等）	2 (7)	1 (13)	3 (20)
合 計	38 (77)	50 (79)	88(156)

11 めぐろエミールの通級状況（単位：人）

(1) 指導者 8人（学習支援教室主任1、都非常勤教員3人、学習支援教室指導員4人）

(2) 通級している児童生徒数

（ ）内は前年度4～3月の通級児童生徒数

	小 学 校							中 学 校				総計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	
男子	0(0)	0(0)	0(0)	1(1)	1(0)	1(2)	3(3)	1(2)	3(8)	7(10)	11(20)	14(23)
女子	0(0)	0(1)	0(0)	0(2)	2(1)	0(0)	2(4)	1(8)	7(5)	6(6)	14(19)	16(23)
合計	0(0)	0(1)	0(0)	1(3)	3(1)	1(2)	5(7)	2(10)	10(13)	13(16)	25(39)	30(46)

12 メンタルフレンドの派遣状況

(1) メンタルフレンド登録者数 16人(前年度登録者数 8人)

(2) 実績

()内は前年度4月～3月の数

内 容		派遣人数	派遣回数	対象児童生徒数
学習支援教室(めぐろエミール)への派遣	複数の児童生徒との交流	14 (7)	4 (104)	30 (46)
	特定の児童生徒との交流	0 (1)	0 (4)	0 (1)
学校への派遣		0 (0)	0 (0)	0 (0)
自宅への派遣		2 (2)	7 (43)	2 (2)

13 eラーニング(インターネットを利用した学習形態)の利用状況(単位:人)

(1) めぐろエミールの利用状況

()内は前年度4月～3月の登録利用者数

小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	計
0 (0)	1 (0)	2 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	4 (8)	12 (12)	12 (12)	36 (32)

(2) eラーニングシステムによる学習支援モデル事業の利用状況(第九中学校)

()内は平成29年5月1日現在の在籍生徒数

利用生徒実数	学年	中1	中2	中3
	人数	40 (40)	47 (48)	56 (61)
	合計	143 (149)		
夏季学習教室での利用 (7月21～27日の 5日間)	学年	中1	中2	中3
	人数	14	10	12
	合計	36		
8月～9月の利用	学年	中1	中2	中3
	人数	3	0	0
	合計	3		

14 教育相談の状況

(1) 教育相談員 11人

(2) 実績

()内は前年度4月～3月の件数

内 容	不登校を主訴とした相談件数	総件数
来室相談	56 (74)	268 (363)
電話相談	15 (13)	54 (69)

15 スクールカウンセラーの派遣状況

(1) 派遣人数 58人 (都費スクールカウンセラー 31人、区費スクールカウンセラー 27人)

(2) 相談実績

() 内は前年度4月～3月の件数

小学校					
不登校を主訴とした相談件数					総件数
児童	保護者	教職員	その他	合計	
123 (301)	87 (278)	285 (648)	7 (7)	502 (1,234)	7,973 (17,280)
中学校					
不登校を主訴とした相談件数					総件数
生徒	保護者	教職員	その他	合計	
349 (689)	259 (574)	519 (1,079)	35 (64)	1,162 (2,406)	4,532 (10,180)

16 スクールソーシャルワーカーの派遣状況

(1) 派遣人数 2人 (前年度 1人)

(2) 相談件数

() 内は前年度4月～3月の件数

不登校関連相談件数	総件数
12 (10)	16 (12)

(3) 派遣等の実績

() 内は前年度4月～3月の件数

	学校	家庭	教育委員会関係	関係機関	その他	合計
不登校を主訴 とした派遣等	47 (67)	108 (205)	46 (38)	14 (10)	0 (0)	215 (320)
派遣等総数	55 (96)	115 (261)	48 (44)	16 (16)	0 (0)	234 (417)

17 平成29年度目黒区立小・中学校における不登校問題への取組み

別紙のとおり

18 今後の予定

11月10日 合同校(園)長会にて周知

以 上

平成 29 年度目黒区立小・中学校における不登校問題への取組み

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組の改善	組織体制の整備 ● 校長を中心とした校内体制の強化 ● めぐる学校サポートセンター内の連携・連絡の強化による支援の充実											
	学力の定着 ● 児童・生徒の状況を踏まえ習熟度に応じた指導の充実 ● めぐるエミール、放課後学習の改善、中学校でのeラーニングモデル実施（7月）											
	家庭への配慮支援 ● スクールソーシャルワーカーの増員（4月）、メンタルフレンドの人材確保 ● めぐる学校サポートセンターリーフレットの区内施設への配布											
	学校における初期対応マニュアルの改善・活用 ● 初期対応マニュアルの改善を図り、校内での周知を徹底し、早い段階からの適切な対応の実施（6月）											
● 不登校の未然防止・早期発見・適切な対応に向けた取組み改善												
未然防止	傾向のある児童・生徒に関して、小・中・高の確実な引継ぎ				一人一人の児童・生徒に応じた継続支援							
	学校と関係機関とのネットワークの構築				学校や関係機関、スクールカウンセラー（全員面接）などの相談機能の連携強化							
	不登校、集団不適應及び発達障害等に関する専門家への相談及び研修会等の実施（8月）											
	放課後学習支援事業による学力の定着											
	めぐるエミール職員等による学校訪問相談等の実施（8・9月）											
● 不登校を未然に防ぐための具体的な取組み内容												
早期発見	スクールカウンセラーによる児童・生徒面接（小5・中1の全員面接）、行動観察及びケース会議等における情報の共有 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、医師等の専門家、関係機関との情報の共有化による早期発見											
	予兆者も長期欠席児童・生徒記録（個票）を作成し、具体的な支援策を立て、早期に対応				不登校に関する個票の作成及び提出基準日 5/31、6/30、9/30、11/30、2/28、3/31							
● 不登校の素早い発見と確実な状況把握												
早期対応	学校や関係機関、スクールソーシャルワーカー、専門家等の連携による相談等の支援											
	めぐるエミールで長期欠席の状況にある児童・生徒に対し、学習に関する個別指導や援助指導を行う。さらに学習支援以外の居場所としての機能を拡充し支援を行う。											
	不登校対策のためのeラーニングによる支援を行う。未然防止にもeラーニングを活用する。											
	長期欠席者に対して、大学で心理学・教育学を専攻している学生がメンタルフレンドとなり、話し相手や遊び相手となる。											
	個別適応計画書（長期欠席児童・生徒及び遅刻・早退の顕著な児童・生徒の記録 個票の裏面）を作成し、児童・生徒の状態や必要としている支援を把握し、適切な支援を行う。											
● 不登校の解決に向けた素早い取組み												